

令和4年度 指導教諭による「授業力アップ講座」①②

本年度も指導教諭の優れた授業及び講義、実技講習指導等を広く公開し、授業改善、指導力向上等を図る講座を開設しました。今号では、2つの授業力アップ講座を紹介します。

8月26日(金) 奥州市立水沢南小学校 第5学年
算数 高橋 美樹子 先生
授業：合同な図形「形も大きさも同じ図形を調べよう」

9月21日(水) 奥州市立水沢小学校 第3学年
書写 大坂下 勝江 先生
授業：ひらがな「つり」

高橋先生の授業から学ぶ算数の授業のポイント！

大坂下先生の授業から学ぶ書写の授業のポイント！

- 既習事項を確認し、本時に向けた事前指導も含め、レディネスをそろえておくこと。
- 児童の発言や机間指導によるノートやワークシートから児童の思考を見取り、学習活動を充実させること。

- 原理・原則（他の文字または文字群に共通する一般的な書き方）を意識して指導すること。
- 「合言葉」となる分かり易い言葉とリズムを子ども達と一緒に考えること。

1 授業参観

「3つの頂点の位置が決まれば合同な三角形を描くことができる。」という前時までの学習を基に、様々な方法で描かせながら合同な三角形の描き方をまとめる授業でした。どの辺の長さや角の大きさを使って描いているか、友達の発表を聞き、共通点を考えながらまとめました。その際には、机間指導により把握した共通の考えをもっている児童への意図的指名を基に、学級全体の思考を整理しながら進めました。



1 授業参観

片仮名と平仮名を提示し見比べる活動から授業が始まりました。平仮名は、丸みをつけて書くことを本時の「書写のかぎ」（原理・原則）としておさえました。書かせる時は、「とんと軽く置いて」「右に上がって」「穂先の向きはそのまま」「すうっ」といった合言葉を子どもと一緒に考え、それを使いました。水書板は、筆圧がどうなっているかを確認するために横から見せていました。



2 ICTの活用

作図を行う際に、デジタルコンテンツを活用しました。教師の説明だけで作図ができる児童、デジタルコンテンツを使い作図をする児童、教師がついて作図をする児童と、それぞれのペースで作図を行うことができていました。



2 ICTの活用

電子黒板を使い、DVD動画を見せて平仮名の特徴を視覚的にとらえさせました。また、動画を止めて、穂先の位置を画面上に書き込む等、効果的に活用していました。



3 協議

児童一人一人を見取ることは難しいが、向き合っていくためにICTの活用は欠かせないという話題が出されました。また、児童に合わせて、端末を活用する、人に聞く等、必要に応じて使い分けることも大切だということを確認しました。



3 協議・実技

ワークシートは、「かご字」「骨字」を課題に合わせて使い分けることが大切だという話題が出されました。また、片付けや道具の扱い方、筆の持たせ方等、日常の書写指導の基礎的な指導の仕方について実技を通して確認しました。



参加者の声（一部抜粋）

参加者の声（一部抜粋）

- ・算数科として、既習事項を生かす学びの連続性を大事にしながら指導にあたりたいと思います。
- ・ICTの一人一台活用により、子ども達の主体的な学びにつながり、理解も深まると感じました。そのため、単元を通して、どの場面でどのように活用させていくのか指導者が明確なねらいをもって授業を行うことが大切だと思いました。

- ・子ども達に身に付けさせたい力を常に意識し、体得させることが大切だと学びました。そのために、合言葉を使ったりワークシートを複数用意したりする工夫が有効だと思いました。
- ・先生も子ども達もとても楽しそうに学びに集中している様子が伝わってきました。本時は「かぎ」を提示しており、参考になりました。